

「可能性に意識を向ける！」

コンサルティング / プログラムの背景にある気づきと設計思想

小川政信の知見・略歴

- ① 意識を向けた方向に現実が創られる、だがその意識の向け方が狭いことが多い、という知見
(藤沢秀行 / シュレーディンガーほか。経営に関してはインスパーク小川政信の数多くの実地実戦プロジェクトからの気づき)
- ② 人も組織もいま見ている世界で最大限努力しているもの。ものの見方が変わらなないと、それ以上よい結果は出せない (野村監督 / マーシャル・ゴールドスミス)
- ③ 「作戦思想」が事業の現実を産む。そして「作戦思想の進化」こそ事業と経営を進化させる鍵である、という気づき (インスパーク/小川政信)
- ④ 戦略の誤りの50%以上が「顧客の反応」の読み誤りに起因という気づき
(インスパーク/小川政信)
- ⑤ その顧客の反応の立体感（の読み誤り）には、N=3で気づき始めることができるという知見
(インスパーク/小川政信)
- ⑥ 顧客の反応の立体感を土台におくと、マーケティングから戦略空間全貌での判断まで素早く的確に行えるという知見 (インスパーク/小川政信)
- ⑦ ところで、実地実戦で活かせるのは混沌とした現実から自ら抽出した理論や方法論、という知見
(マハン大佐 / 秋山真之)
- ⑧ 大量の事実が与えられると、ルールや方法を教わらなくても人は驚くほど早く学ぶ、という知見
(脳障害児治療に画期的なアプローチを発見開発したグレン・ドーマン博士 <SONYの井深・盛田両氏が支援した有名な研究所>)
- ⑨ 経営には知識・思考だけでなく「心」「感謝」が大切という気づき (危機を乗り越えた経営者多数ほか)
- ⑩ 共鳴・共振により、1人ひとりが本来有している力が引き出されるという知見
(ナチュラルヒーリング上の知見 / 2015細田守監督の映画 バケモノの子 も示唆)



小川政信 1959年生まれ、82年東京大学卒業、89年ハーバードMBA。マッキンゼーなどを経て、1996年、最大の費用対効果で、人と組織が豊かに戦略的に生きること支援するため、インスパーク株式会社を設立、代表。

以来、戦略コンサルティングと経営幹部開発を50-50で行ってきたため、多彩な業界／様々な局面の経営課題を支援してきた。約200社、2000案件、8000名を支援輩出。持ち味は、

① 多彩なプロジェクトから来る実戦感覚、② 市場の立体感からマーケティング・戦略判断まで圧倒的なスピードと的確さで到達する力、③ 人の意識の向け方への関心と気づきへの支援、にある。著書多数。ビジネスモデル学会、運営委員。